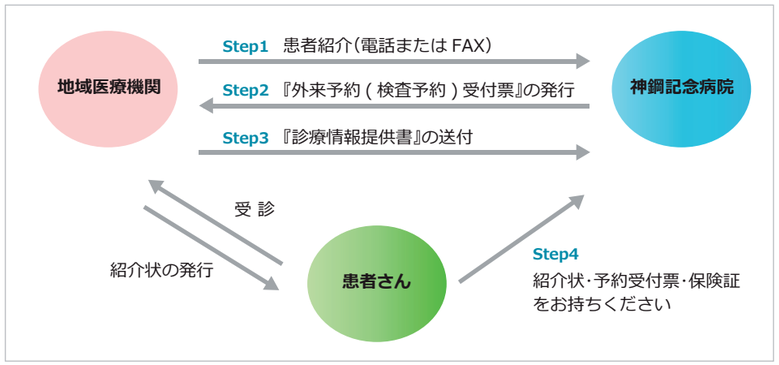
おしらせ

Info 2 地域医療連携センターのご案内

地域医療連携室まで、電話またはＦＡＸにてお問い合わせください



■ 外来予約・検査予約・各種問合せ

Ｔ　Ｅ　Ｌ：**０７８－２６１－６７３９**（直通）
Ｆ　Ａ　Ｘ：０７８－２６１－６７２８
受付時間：月～金曜日　午前８時３０分～午後７時
土曜日　午前８時３０分～午後12時
※ 時間外は078-261-6711〔代表〕までお問合せ下さい。

■ 救急受診・転入院問合せ

Ｔ　Ｅ　Ｌ：**０７８－２６１－６９２７**（直通）
Ｆ　Ａ　Ｘ：０７８－２６１－６７２８
受付時間：月～金曜日　午前８時３０分～午後５時
※ 時間外は078-261-6711〔代表〕までお問合せ下さい。

Medical News

2015 年 12 月
Vol.102

Shinko Hospital

Contents

＊特集［緩和治療に取り組む］
＊感染症科医のつぶやき
＊開業医探訪
「阿部内科・循環器科」
＊おしらせ
・新入職医師のご紹介
・地域医療連携センターのご案内

神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して、皆様に愛される病院を目指します。

基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL：078-261-6711（代表）
FAX：078-261-6726
URL：http://www.shinkohp.or.jp/
発行責任者：理事長　山本 正之
編集責任者：神鋼記念病院広報委員長
山神 和彦

講演会などの
詳しい情報はこちらから !!
神鋼記念病院　検索
http://www.shinkohp.or.jp/

神鋼記念病院
Medical News
2015
12

緩和治療に取り組む
palliative medicine

治療をしていくという事が伝わるよう緩和治療科と命名

緩和治療科は2014年4月に標榜を開始した新しい診療科です。同年3月まで麻酔科部長と緩和ケアチーム医師を兼任していた浅石が専従となり、1人体制で緩和治療科を立ち上げました。

科の名称を決めるにあたって留意したことは、「緩和を要する身体症状があればしっかり治療していく」ということが伝わる名称にするという点です。そこで、ズバリ『治療』の文字を入れました。「緩和治療科」という名称では院外標榜は認められませんので院内標榜ですが、意図した効果はみられています。

初回面談で「緩和治療科」と名乗って診療内容を説明すると、「カウンセリングなら自分には必要ないと思っていたけど、そういうことなら是非よろしくお願いします」との反応が少なくありません。体のつらさ・こころのつらさ・生活上の悩みに寄り添う緩和ケアを、わかりやすく説明しタイムリーに実践することを心がけて、毎日の外来診療（下表）、病棟では毎週火曜日の定例チーム回診とほぼ毎日の回診を行っています。

■緩和治療科 外来診療日

	月	火	水	木	金
午前	×	○	○	×	×
午後	○	×	×	○	○

タイムリーな介入を目指すがん療養サポートチーム

当院の『緩和ケアチーム』は2005年に活動を開始しました。その後、2011年に『がん療養サポートチーム』に名称を変更しました。国の第1期がん対策推進基本計画（2007年）で、「治療の初期段階からの緩和ケアの実施」がうたわれ、早期からの緩和ケアが推奨されながらも、まだまだ「緩和ケア」＝「終末期ケア」との誤解が根強く、緩和ケアチームのタイムリーな介入が困難な状況がありました。

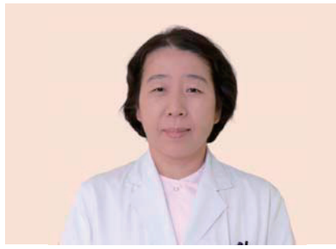
「まだ治療を頑張っているのに緩和ケアなんて言われて…見放された気がした」、「縁起でもない」といった患者さんやご家族の反応や、医療者からも「いよいよとなったら緩和ケアチームに依頼する。が、まだ早い。」など、緩和治療を必要とする患者さんに関われないという事が多くありました。このような状況の打開を目指して、チームの名称から「緩和」の文字をはずし、『がん療養サポートチーム』（以下、サポートチーム）に改称しました。

チームへの介入依頼は、患者・家族のご希望が前提ですが、オーダーは主治医だけでなく病棟看護師、薬剤師などのスタッフからも広く依頼を受けております。チームのメンバーは、医師2名（緩和治療科1名・外科1名）、看護師2名（がん看護専門看護師・がん性疼痛看護認定看護師）、薬剤師1名、作業療法士1名、管理栄養士1名で、専従の浅石以外は兼任で活動しています。また、アドバイザーとして非常勤の精神科医師1名、臨床心理士1名にも「精神的苦痛の緩和」についての対応や相談をお願いしています。

専門看護師・認定看護師とともに外来診療を実施

2011年にはがん療養支援外来（＝緩和ケア外来）を開設し、チーム活動の一環として、安藤がん看護専門看護師と二人三脚で診療・面談を行ってきました。2014年8月からは家本がん性疼痛看護認定看護師も加わりました。

診療の対象は、①当院外来通院中で



緩和治療科 部長　浅石　眞実
Mami Asaishi

神戸大学を昭和55年に卒業。
日本麻酔科学会専門医・指導医、麻酔標榜医などの資格を持つ。

緩和を必要とする症状を有する方、②入院中にチーム回診対象となった方のうち、退院後も継続的なフォローが必要と認められた方、③化学療法・放射線治療と並行して、定期的・継続的に受診していただく進行がんの方（後述【※】）などになります。

当院には良性の慢性疾患で難治性の痛みを抱える患者さんも多いため、①②のグループには、がんの患者さんだけでなく良性慢性疾患の患者さんも含まれます。通院負担軽減のため、できるだけ治療科の受診日に合わせて予約を入れ、当該科の混雑状況によっては、待ち時間を利用して受診していただいています。診察時間は1人あたり30分～1時間程です。

進行がんの初回治療期から サポートチームが継続的に介入 ※

2012年6月に『肺がんサポート』を開始、また2015年2月には『膵がんサポート』（膵臓がん・胆嚢がん・胆管がん対象）を開始しました。これは「早期からの緩和ケア」の実践として、進行がんの初回治療期からサポートチームが継続的に介入し、患者さんと家族のQOL向上を目指す取り組みです。

初回治療入院時に1回目の診察を行い、その後は月に1回のペースで定期的・継続的に診察・面談を行います（原則、外来診察室で実施）。その内容は下記のように多岐にわたります。

がん看護専門看護師
安藤 公子
Kimiko Ando

がん性疼痛看護認定看護師
家本 由佳
Yuka Iemoto

まず身体症状の緩和。やはり多いのは痛みです。痛みが強く迅速なコントロールが必要な場合は、当科で鎮痛薬の処方や調整を行います。便通の異常も多い症状です。「がんの治療中だから仕方がない」と我慢しがちな口内炎・皮膚症状について、保湿や清潔保持、その他の対処法をがん看護専門看護師がきめ細かくアドバイスします。

気持ちのつらさや生活の中での困りごとについてお伺いし、傾聴が1時間に及ぶこともあります。また、家族面談も実施しており、患者さん本人とは別に家族だけとの個別面談もシステムとして行っています。

また、日々の体調管理や生活のサポート、管理栄養士と連携して栄養教室や栄養指導を受けて頂き、抗がん剤治療遂行のための体力維持、あるいは化学療法に伴う吐気による食欲低下への対策に取り組むほか、リハビリテーション室との連携では、活動性低下に伴う四肢筋力低下対策（特に下肢）として、初回入院中または外来通院中からリハビリを導入しています。さらに自宅でできる筋力維持運動の指導・痛みのある患者さんの日常生活動作アドバイスなども行っています。

介護申請は「寝たきりになったら･･･」というイメージがある為に、「まだ早い」と思われがちですが、サポートを受けながら療養生活ができるよう、必要と思われる方には外来通院中から紹介しています。

がん療養サポートチーム　左から家本認定看護師、浅石緩和治療科部長、石井外科部長、安藤専門看護師、杉本薬剤師

かかりつけ医や 訪問診療の先生との連携

がんの治療を始めると、これまでの通院を中断される方がおられますが、かかりつけの先生への定期的な通院や、病状によっては定期的な往診を受けることのメリットを丁寧に説明しています。さらにACP(Advanced Care Planning)として、病状の進行に応じて療養の場についての思いなども伺い、在宅診療・緩和ケア病棟などの情報提供を行います。

継続的な緩和ケアの提供が 有用である

このような取り組みを通じて、初回治療期からの継続的な緩和ケアの提供が、患者さん・ご家族にとって有用であることを強く感じています。進行肺がんと、肝・胆道系・膵がんに限定していますが、将来的にはがん種を特定せず広く行っていければと考えております。

緩和ケアは、地域の先生方、緩和ケア病棟や訪問看護など多くの方々との連携、院内の様々な部署との連携で成り立っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

Infectious Disease Vol. 12

感染症科医のつぶやき

Infectious Disease

神鋼記念病院 感染症科 科長
香川 大樹

【抗菌薬を適正に使用するには ④】

今回は、抗菌薬の適正使用のために注意すべき5つのポイントのうちの4つ目、「適切な抗菌薬を選ぶこと」についてお話しします。

抗菌薬には、ペニシリン、セフェム、カルバペネム、キノロン、マクロライドなど多くの種類があります。したがって、抗菌薬治療を行う場合には、その中から適切な抗菌薬を選ぶ必要があります。適切な抗菌薬とは何でしょうか？それは「状況に応じた第一選択薬」です。

例えば、PCGに感受性のある肺炎球菌の肺炎はどの抗菌薬で治療すればいいでしょうか。そのような場合、PCGが第一選択薬であると教科書に書かれていますね。つまり、PCGが「状況に応じた第一選択薬」です。この状況でカルバペネムやキノロンを選ぶことは（ペニシリンにⅠ型アレルギーの既往がある等のような特別な事情が無い限り）不適正となります。

勿論、カルバペネムが第一選択薬となる場合もあります。例えば、敗血症性ショックの初期治療、カルバペネム以外に感受性の無い菌による感染症の治療ではカルバペネムが第一選択薬です。これらの場合、カルバペネムでの治療は適正とされるのです。つまり抗菌薬を適正に使用するには「適応（第一選択薬となる状況）」をあらかじめまとめておく必要があります。

「どういう状況で適応となるか」を勉強せずに麻薬や抗癌剤を処方される先生、手術される先生はいらっしゃいませんよね。勉強していない抗菌薬を処方してはいけないのです。

開業医探訪
inquires into a doctor
Vol.23

［内科・循環器科］

阿部内科・循環器科

今回はJR甲南山手駅の南側、2号線沿いにある「阿部内科・循環器科」を訪問致しました。

診療を開始されてどれくらいになりますか？

父が55年前までこの地で「阿部外科」として開業しておりました。父亡き後、約40年経過した平成14年9月に開業し、今年で14年目になります。

どのような患者さんが来院されますか？

高血圧・不整脈・狭心症などの循環器系疾患以外にも、糖尿病や脂質異常症の患者さんが多く来院されます。また、健康診断で異常を指摘されて来院される患者さんも多くいらっしゃいます。当院にはトレッドミルを置いていますので、学校健診で心電図異常があり、運動可否の判定に来院される方もおられます。

診療にあたり心掛けていることは何ですか？

診療の質の維持・向上に常に努力すること、患者さんの不安を和らげるよう待合の雰囲気作りに気をつけています。エコー・ホルター・トレッドミル検査もできるだけ当日に、遅くとも2～3日で結果をお知らせしています。

どの患者さんにも適切で分かりやすい説明・アドバイスをできるように心がけており、その結果「受診してよかった」と思って頂けるよう努めています。

ひとこと

自宅開業ですので、症状によって時間外にも受診される方が多くいらっしゃいます。緊急を要する時に24時間対応頂けるよう、病診連携を深めていきたいと考えています。

information

- □ 神戸市東灘区森南町2丁目1番13号
- □ ＴＥＬ：078-431-2313
- □ 診療科：内科・循環器科
- □ 休診日：木･土曜午後、日曜、祝日
- □ 診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
16:00～19:00	○	○	○	×	○	×